

# 豆狸の寝言

副会長 三原幸二

伊丹空港から、沖縄へ行くことになった。

伊丹空港へは阪神高速の環状線で行くのだが、あいにく改修工事のため通行止めになっている。迂回する方法もあるにはあるが、この方面への道はいつも混雑するので、到着時間の予測がつかない。車をあきらめ、電車で行くことにした。

JR 伊丹駅まで電車で行き、そこからタクシーに乗るのがいちばん速いと聞いてそうしたが、伊丹駅で電車をおりると、左右二つの出口がある。ちょっと迷って、多くの人が向かう左へ出ることにした。ところが、タクシー乗り場が見当たらない。

一瞬、出口を間違ったか、と思ったが、反対側へ戻るのも時間がもったいない。どうしようかと思っていると、タクシーが一台やってきた。手をあげてとめようとしたが、スーッと行ってしまった。

しばらくすると、また一台やってきた。手をあげると、こんどは止まってドアを開けてくれた。

行き先を告げ、やれやれと思っていると、タクシーが止まった。まだ80メートルも走っていない。何かあったのか。

すると運転手さんが振り返って、

「お客さん、あの一番前に並んでるタクシーに乗ってください」

見ると、ロータリーになったところに、タクシーが十数台並んでいる。

ようやく私にも事情がのみ込めた。タクシー乗り場は高台にあり、駅の2階から陸橋を渡っていけるようになっていたのである。

それはともかく、料金を払おうとしたが、運転手さんは受け取ろうとしない。礼を言って、最前列のタクシーに乗った。



しかし、先ほどの運転手は、なぜあのまま伊丹空港まで行かなかったのか。不思議に思ったので、あとで乗ったタクシーの運転手さんに聞いてみたが、規則はないが、運転手仲間の暗黙の了解事項であるという話だった。

長い時間をかけて決めた規則でさえ守られない今の世の中で、規則にもなっていない了解ごとを守る人たちがいる。

そう思うとなんだかうれしい気分になり、おかげであまり好きでない空の旅も、苦にならず過ごすことができた。

(2003年・タクシー乗り場での出来事)